一療病院ニテ病者ヲ治療スル壹万〇九百拾七人　但全愈ノ者六千九百六十六人

但明治五年十一月設置

内

同解剖スル貳十四人

種痘館ニテ種痘スル拾七万千七百拾三人　但五年以前人員不詳

内

初種八万〇五百四拾八人去ル五年府廳臨御以後ノ分

再三種　九万千百六十五人

癲狂院ニテ病者ヲ治療スル百九十四人　但全愈ノ者貳十壹人

但明治八年七月開院

驅黴院ニテ病者ヲ治療スル貳百壹人　但全愈ノ者百六十人

但明治九年九月開院

療病館ニテ病者ヲ治療スル貳千六百七拾六人　但全愈ノ者貳千四百六十三人五年以前人員不詳

合藥會所二ヶ所

但明治八年六月開業

一各賞貳萬九千貳百六人　各賞ハ人民ヲ云

一合賞六百三十五類　合賞ハ町村等ヲ云

内

各賞貳千八十三人　去ル五年府廳臨御之節現數

合賞五百六十壹類　同上

此譯

善行奇特者千四百九十三人ト五百六十一類　但御一新之砌献金ノ者ニ

追賞　拾九人

養老　五十一人

人命救援　四十人
強盜捕縛　三十六人
窃盜捕縛　百五十三人
防火　貳百九十一人
各賞貳萬七千百貳十三人　去ル五年府廳臨御以後增加
合賞七十四類　同上

此譯

善行奇特者貳万六千貳百四十五人ト七十四類　但學校病院等ヘ献金之者ヒ

追賞　貳人
人命救援　四百拾三人
強盜捕縛　百七十八人
窃盜捕縛　五十五人
防火　貳百十貳人

人殺并放火ノ者ヲ獲ル　拾六人
公役中傷痍死亡　貳人

一准刻書千三百貳拾五件
內
貳百三十六件　去ル五年府廳臨御之節現數
千〇八拾九件　同臨御以後增加

一集書院　壹ヶ所
但明治六年五月設置
書籍壹千八百〇七部
內
國書　七拾壹部　冊數貳千三百五十七冊

此冊數壹万四千百九十冊

漢書　百三十九部　同　五千四百冊
翻譯書　貳百八十七部　同　五百三十三冊
醫書　百拾壹部　同　千百九十一冊
佛書　貳百九十六部　同　千九百四十二冊
雜書　五百七拾五部　同　六百六十四冊
日誌並新聞紙　三百貳十八部　同　七千百〇三個

外二
管內物產便覽

右之通候也

明治十年一月

京都府

第四十八號

東京府ヲ除
府縣

先般人相書ヲ以テ相達置候秋月逃亡賊徒ノ內牟田止戈雄儀一月廿二日福岡縣下筑前國夜須郡隈江村ニ於テ捕獲候趣同縣ヨリ届出候條此旨爲心得相達候事

明治十年二月七日

參議兼司法卿大木喬任

右之通達有之候條管內無洩相達者也

明治十年二月十二日

京都府知事槇村正直

第四十九號

第壹號

愛知縣下名古屋分局ヨリ三重縣下津ニ至ル電線架設落成ニ付同所ヘ分局設置本月十五日ヨリ爲レ試通信取扱候間音信料ハ明治九年十一月當省第拾九號布達追加ノ通相心得可レ申此旨布達候事

明治十年二月七日

工部卿伊藤博文代理

工部大輔山尾庸三

右之通達有レ之候條管内無レ漏相達者也

明治十年二月十二日

京都府知事槇村正直

第拾五號

明治八年十月第百五拾號布告煙草稅則第一則第一條但書中煙草賣買營業人ヘノ八字削除候條此旨布告候事

明治十年二月七日

右大臣岩倉具視

第拾六號

本年一月第七號ヲ以テ賣藥規則布告候處該規則第三章罰則ノ儀ハ來ル六月一日ヨリ施行候條此旨更ニ布告候事

但諸鑑札授受稅納其他手續等ノ儀ハ追テ內務省ヨリ可ニ相達一事

明治十年二月七日

右大臣岩倉具視

右之通被ニ仰出一候條管内無レ漏相達者也

明治十年二月十二日

京都府知事槇村正直

京都府布令書明治十年二月第五十號

第五十壹號

此頃坊間ニ球鳶或ハ西洋風鳶ト云ト唱ヘ水素瓦私ヲ護謨球ニ充タシ兒童玩弄物トシテ販賣致シ候者往々有レ之右水素瓦私ハ至テ燃燒シ易キ性質ヲ有スルモノニシテ酸素瓦私ト混合スレハ所謂爆鳴瓦私トナリ火ニ直觸スレハ猛烈ナル破烈ヲ起シ空氣ト相混シ火ニ遭フ時モ亦危險ナル破裂爆鳴ヲ發スルカ故ニ自然之カ爲メ不慮之傷害ヲ受ケ候テハ以之外之事ニ付自今右品販賣ハ勿論玩弄トモ差止候事

右之通管内無レ漏相達者也

明治十年二月十二日

京都府知事槇村正直

第五十二號

第拾七號

保釋條例別冊ノ通創定候條此旨布告候事

明治十年二月九日

右大臣岩倉具視

右之通被仰出候條管内無洩相達者也

明治十年二月十三日

京都府知事槇村正直

保釋條例

第一條　保釋トハ刑事被告人ヲシテ保証人ヲ立テ保証金ヲ出シ審訊中ノ繫留ヲ免レシムルモノヲ云フ

第二條　裁判官ハ被告人ノ逃逸シ或ハ罪証ヲ隠滅スルノ虞ナキヲ察スレハ懲役終身以上ニ該ルヘキ者及ヒ先キニ重罪ノ刑ニ處セラレタル者ヲ除クノ外保釋ヲ許スヘキモノトス

第三條　被告人タル者及ヒ其保証人タラント欲スル者ハ何時ニテモ保釋ヲ願フコトヲ得ヘシ

裁判官ハ速カニ之ヲ許否スヘシ事由ナクシテ遷延五日ヲ過ルコトヲ得ス

第四條　保証人ハ貳名以上トス然レ𪜈裁判官ノ見込ニヨリ壹人ニテ充分ナリト認ムル時ハ此例ニアラス

第五條　保証金高ハ被告人ノ罪情ノ輕重及ヒ被告人保証人ノ貧富ニ應シ裁判官相當ノ額ヲ定メ被告人及ヒ保証人ヲ連帶シテ之ヲ出サシム

第六條　保証人ハ被告人ヲシテ何時ニテモ裁判所ノ呼出ニ應シ出頭セシムルノ責ニ任スヘシ

第七條　保釋ヲ得ルノ被告人其住所ヲ定ムルハ裁判官ノ承諾ヲ得ヘシ且事故ナクシテ遷ニ他出スルコトヲ許サス

第八條　保証人ハ被告人ノ逃逸シ及ヒ罪証ヲ隠滅セントスルヲ察スレハ直チニ官ニ告クヘシ若シ事急ナル時ハ自ラ拘引スルコトヲ得ヘシ

此場合ニ於テ保証人保釋ヲ辭スル時ハ其保証金ヲ還付シ被告人ハ更ニ他ノ保釋ヲ願フコトヲ得

第九條　被告人裁判所ノ呼出ヲ受ケテ指頭セサル時ハ直チニ之ヲ逮捕セシメ再ヒ保釋ヲ許サス仍ホ保証金ハ官ニ沒ス

但刻病等不得止事故アル者ハ此限ニアラス

第十條　被告人保釋中逃走スル者ハ此限ニアラス其保証人逃走スルヲ覺ラサル者ハ保証金ヲ官ニ沒シ故縱スルモノハ主守不覺失囚律中減縱スル者ヲ以テ科斷ス仍ホ保証金ハ官ニ沒ス

第十一條　保証人タルヘカラサル者左ノ如シ

第一　被告人ノ犯罪ニ付關係アル者

第二　懲役五年以上ノ刑ニ處セラレシ者

第三　老幼婦女其他不能力者

第十二條　被告人保釋中壹名ノ保証人其保証ヲ辭スルカ又ハ死亡スル時ハ更ニ他ノ保証人ヲ選ムヘシ

第十三條　被告人ノ裁判言渡ヲ受ル時ハ保証金ハ直ニ還付スヘシ

第十四條　若シ裁判官私讐ヲ懷挾シ故ラニ保釋ヲ許サヽル時ハ故禁無罪人律ヲ以テ論ス

第十五條　裁判不服ヲ以テ大審院ニ上告シ上告中拘置セラルヽ者モ亦此例ヲ通シ用フヘシ

附則

逮捕罪又ハ其他ノ刑事被告人ニテ從來親戚又ハ書記區戸長預ケ等ノ先規アルモノハ此保釋條例ト並ヒ行フヲ得

告諭

朝旨ヲ下ニ徹セシメ民情ヲ上ニ達セシムルハ地方政治ノ要ナリ冗費ヲ省キ有益ヲ興スハ方今經濟ノ急トス然モ官民間隔スルキハ實際其事業行レカタシ凡上下ノ傳達級ヲ經ルコ多ケレハ事情隨ッテ閉塞ス官民ノ實用況出スレハ國家タメニ衰弊シ有益ノ事業興ラス先般已ニ地租減省ノ詔アリ今般又行幸親シク民情ヲ御下問アリ常ニ民政ニ叡慮ヲ勞シ玉フコ豈ニ感戴セサル可ケンヤ彌官民接近親シク協議盡力シテ冗費ヲ除キ有益ヲ興シ此土地ヲ繁榮セシメ國家富強ノ御基礎ヲ助ケ以テ此風儀ヲ開明ニ進メ共ニ衆庶、夫レ深ク之ヲ體セヨ

聖意ノ万一ニ報ヒ奉ラ

一區内或ハ町村内ニテ從前ノ入費減省ス可キ廉アラハ可申出事

一土地人民ノ爲メ筋ニ相成ヘキ事思ヒ付カハ可申出事

一官員并區戸長等權威ヲ弄シ妨ヲナシ或ハ不正ノ所行アラハ憚リナク可申出事

一人ノ權利ヲ妨ケ風儀ヲ亂シ又ハ惡事ヲ企ル等ノモノアラハ可申出事

一道路或ハ水理ヲ變換シ便宜ニナルヘキ見込アラハ可申出事

一人身健康ノ妨ケトナルヘキ事アラハ可申出事

一現今ノ物産ヲ盛ニスル見込及ヒ未發ノ產物ヲ發見スルアラハ可申出事

一善行人アラハ可申出事

右ノ條中忌憚アルカ或ハ願伺等塞閉沈滯スル事アラハ密封ヲ以テ親展ト記シ我等名宛ニシテ直ニ書通スヘキ事

右數ケ條ノ儀ハ兼テ相達シ置候ヘ共年月已ニ遠ク塞閉沈滯等ノ弊之レアルモ計リカタキニ付更ニ管内ヘ無漏相達者也

明治十年二月十四日

京都府知事槇村正直

第五拾四號

從來各地方ニ販賣スル小兒ノ玩具多クハ無益ノ物品ニシテ小兒教育ノ事ニ注意セシモノ無ク然ルニ小兒ノ際ハ才智特ニ穎敏ニシテ一事ヲ授クレハ隨テ之ヲ了解シ一物ヲ示セハ就テ之ヲ發覺ス之レガ父母タル者其理ヲ悟リ相應ノ教育ヲ施サハ小兒成長ノ上家ヲ興シ國ヲ益スルヿ果シテ如何ゾヤ故ニ文明國ノ政府ニ於テハ善良ナル小兒ノ玩具ヲ製造シ兒童ヲ教育スルニ決シテ其期ヲ愆ラス既ニ二三歳ノ春秋ヨリ教育ノ端緒ヲ解キ之レガ母タル者傍ラ教師ノ任ヲ帶ビテ兒童ノ玩具ニ資リ之ヲ教育スルヲ以テ已レノ任トシ兒童ノ智識ヲ增益スルヿヲ之レ務メリ是以兒童學齡ニ至レハ學校ニ入リ教師ノ教授ヲ受クルニ當リ學ニ倦怠スルヿ無ク業ニ困屈スルヿ無シ如何トナレハ教師ノ教育ト慈母ノ家訓ト更ニ

難易ノ差ナキヲ以テナリ本邦ノ如キハ教育ノ道未タ完具セザルヲ以テ父母タル者未タ教育ノ主意ヲ了解セスシテ特ニ教育ハ學校ニ就イテ初メテ受クル者ナリト思ヒ做シ單ニ教師ノミヲ責望スルハ陋愚ノ極ト云フ可シ見ヨ人ノ兒タル者已ニ學校ニ就ノ後其父母家ニアリテ教育ニ意アレハ其兒ノ學校ニテ進級スルヿ果シテ他兒ニ勝ルヘシ況ヤ少小ノ兒未タ學ニ就サルノ初ヨリ慈母ノ教育其當ヲ得ルニ於テヲヤ府廳是ニ見ルアリテ去年獨乙國ヨリ兒童有益ノ玩具數品ヲ徵集シ學務課ニテ夫々取捨折衷セシメ本邦兒童ニ適合ノ玩具ニ製造シ集産局ニテ發賣爲致候間有志ノ者ハ勝手ニ買得致シ兒童教育ノ一助トセハ其功驗ヲ見ルニ至ラン

右之趣管內無レ洩相達者也

明治十年二月十七日

京都府知事槇村正直

乙第三號

愛媛縣下讃岐國香川郡新丁町　府縣
平民　高尾金藏

右之者義明治九年九月廿五日當省乙第四十五號人相書ヲ以相達置候處同年十月十五日愛媛縣下ニ於テ捕縛相成候條此旨相達候事

明治十年二月十二日

司法卿大木喬任

右之通達有之候條管内へ無漏相達者也

明治十年二月十七日

京都府知事槇村正直

第五十六號

第拾八號

地租改正後買上地拂下地潰地等收稅除稅區分左ノ通相定候條此旨布告候事

明治十年二月十三日

右大臣岩倉具視

第一條

民有地ヲ買上ル時其年分ノ稅ハ買上タル前月分迄月割ヲ以テ收入スヘシ

第二條

官有地ヲ拂下ル時其年分ノ稅ハ拂下タル翌月分ヨリ月割ヲ以テ收入スヘシ

第三條

民有地ヲ官ノ許可ヲ得テ川溝溜池道路堤塘敷等ノ潰シ地トナス時其年分ノ稅ハ潰シ地トナスノ許可ヲ得タル前月分迄月割ヲ以テ收入スヘシ

右之通被二仰出一候條管内へ無レ漏相達者也

明治十年二月十七日

京都府知事槇村正直

京都府布令書明治十年二月第五十七號　〇一

第五十七號

乙第四號

府縣

三重縣下紀伊國牟婁郡野木村

平民

鈴木源吾

三十一年位

一丈五尺三寸八分
一顏角ナル方
一眼大ナル方
一頭散髮薄
一鼻筋通リ
一口小サキ方
一音聲爽カナル方
一色白キ方
一眉薄キ方
一痘痕無之
一職業農
一妻子無之
一禪宗
一右ノ腕ニ丈八寸許リノホリ字アリ南無妙法蓮華經トアリ

右之者三重縣下暴動ノ爲昨明治九年十二月廿日大矢知懲役揚弁同月廿一日山田支廳糟失ノ際近隣ヘ遁ケシメ候處其儘逃走致候條各地方ニ於テ嚴密遂捜索捕縛ノ上八成規之通取計其段可届出此旨相達候事

明治十年二月十二日

司法卿大木喬任

乙第五號

石川縣下第十二大區小七區
加賀國能美郡日用村三番地
農谷口磯八弟

府縣

一丈五尺計
一色黑キ方
一眼常躰
一耳常躰
一口常躰
一髭無之
一疵所無之
一其節衣類木綿平袖綿入紺白縞
木綿茶色六尺計ノ帶ヲメ
菅三度笠掛吳坐ヲ着シ
一職業農

一顏長ク小キ方
一頭元服マケアリ
一眉濃キ方
一鼻高キ方
一齒常躰
一痘痕無之
一音聲常躰

谷口伊三郎
二十四年八月

115

一宗旨眞宗
右之者儀本年一月十五日兄穢八ヲ殺害ニ及ヒ逃走候旨
石川縣ヨリ届出候條各地方ニ於テ嚴密遂捜索捕縛ノ上
ハ成規ノ通取計其段可届出此旨布達候事

明治十年二月十二日

司法卿大木喬任

右之通達有之候條右体之者見當候ハヽ當府又ハ最寄之
出張所ヘ速ニ可届出候此旨管内ヘ無漏相達者也

明治十年二月十七日

京都府知事槇村正直

行在所布告第一號
西京御駐輦被ニ仰出一候條此旨布告候事

明治十年二月十九日

太政大臣三條實美

右之通被ニ仰出一候條管内無レ漏相達者也

明治十年二月十九日

京都府知事槇村正直

第五十九號

行在所布告第二號

鹿兒島縣暴徒擅ニ兵器ヲ携ヘ熊本縣下ヘ亂入國憲ヲ不レ憚叛跡顯然ニ付征討被ニ仰出一候條此旨布告候事

明治十年二月十九日

太政大臣三條實美

右之通被ニ仰出一候條管内無レ漏相達者也

明治十年二月十九日

京都府知事槇村正直

第六十號

乙第十四號

（通）

府縣

拙者義御用有之今十三日西京ヱ出發致候付留守中內務少輔前島密代理致候條此旨相達候事

明治十年二月十三日

內務卿大久保利通

右之通達有之候條管內無漏相達者也

明治十年二月十九日

京都府知事槇村正直

甲第四號

愛知縣下第六區海東郡芝井前新田村共有ノ舊公債貳拾五圓證書ら印五六二番壹葉昨九年十二月廿一日紛失候旨届出候條以後右種類番記號之證書ハ一切取引ヲナスヘカラス又何人ニ不レ限所持致居候ヲ見聞候ハヽ速ニ管轄廳ヱ訴出管廳ヨリハ即當省ヱ可二届出一此旨布達候事

明治十年二月十六日

大藏卿大隈重信

右之通達有レ之候條管内無レ洩相達者也

明治十年二月廿日

京都府知事槇村正直

甲第五號

新五拾圓 に三八七七壹枚 久住五左衞門
舊五拾圓 く白二六六八至二六七一四枚 同名
同貳拾五圓 ち八九三 壹枚 同名
同五拾圓 く二六四八至二六四九 貳枚 一見仁兵衞
同五拾圓 く二六五四 壹枚 長谷川七左衞門
同貳拾五圓 は一九六〇 壹枚 大橋源次郎
同貳拾五圓 は一九三一 壹枚 寺村十右衞門
同貳拾五圓 は一九三二 壹枚 舌津太郎兵衞
同貳拾五圓 ね一四九七 壹枚 中西佐五郎
同貳拾五圓 い四七三 壹枚 片山伊兵衞
同貳拾五圓 を一三二六 壹枚 鈴木文藏跡 壹名

前書ノ通各名所有ノ新舊公債證書合計拾五枚三重縣管

下昨九年十二月二十日暴動ノ節紛失候旨届出候條以後
右種類番記號ノ証書ハ一切取引ヲナスヘカラス又何人
ニ不レ限所持致居候ヲ見聞候者ハ速ニ管轄廳ニ訴出管廳
ヨリハ即當省ヘ可ニ届出一此旨布達候事

明治十年二月十七日

大藏卿大隈重信

右之通達有レ之候條右番記號之品見當リ候ハヽ當府又ハ
最寄之出張所ヘ速ニ可ニ届出一此旨管內無レ漏相達者也

明治十年二月廿一日

京都府知事槇村正直

職獵第八万貳千五百三拾五號

京都府士族

牛窪等外

明治九年十月四十三年九月

本籍　門後國加佐郡第八區舞鶴表町
姓名　六拾六番地
年齢　自明治九年十月一日
住所　至明治十年五月卅一日
番號
期限

右之鑑札紛失候旨届出候付テハ今般更ニ鑑札下渡候
條右番號之鑑札ハ不用ニ属シ候自然所持致居候ヲ見
聞候者ハ速ニ當府又ハ最寄之出張所ヘ可ニ届出一此段管
內ヱ無レ洩相達者也

明治十年二月廿三日

京都府知事槇村正直

第六十四號

行在所布告第三號

征討總督有栖川二品親王明廿四日進發相成候條此旨布告候事

明治十年二月廿三日

太政大臣三條實美

右之通被仰出候條管内無洩相達者也

明治十年二月廿三日

京都府知事槇村正直

京都府布令書明治十年二月第六拾五號

第六拾五號

第壹號

當省所轄第一大學區東京女學校第二大學區愛知師範學校愛知英語學校第四大學區廣島師範學校廣島英語學校第五大學區長崎英語學校第六大學區新潟師範學校新潟英語學校第七大學區宮城英語學校當第一學期限り本月十四日廢止候條此旨布達候事

明治十年二月十九日

文部大輔田中不二麿

右之通達有之候條管內無漏相達者也

明治十年二月廿四日

京都府知事槇村正直

第拾九號

明治八年五月第九拾壹號布告大審院諸裁判所職制章程同年同月第九拾三號布告控訴上告手續別冊ノ通改正候條此旨布告候事

但巡回裁判規則判事職制通則ハ削除候事

明治十年二月十九日

右大臣岩倉具視

右之通被仰出候條管内無漏相達者也

明治十年二月二十四日

京都府知事槇村正直

（別紙）

大審院職制

長一人

一等判事ヲ以テ之ニ充ツ

院長ハ課ヲ分チ主任ヲ命シ隨時各庭ニ臨ミ民刑事件ヲ聽理スルコトヲ掌ル

判事

第一　民事刑事ノ上告ヲ判理シ裁判ノ不法ナル者ヲ破毀シ及ヒ内外交渉ノ事件重大ナルモノ竝ニ判事ノ犯罪ヲ審判スルヲ掌ル

第二　死罪ノ案ヲ審閲スルコトヲ掌ル

屬

大審院章程

第一條

大審院ハ民事刑事ノ上告ヲ受ケ上等裁判所以下ノ審判ノ不法ナル者ヲ破毀シテ法憲ノ統一ヲ主持スルノ所トス

第二條

審判ノ不法ナル者ヲ破毀スルノ後宅ノ裁判所ニ移シテ之ヲ判決セシムル又便宜ニ大審院自ラ之ヲ判決スルコトヲ得

第三條

已ニ宅ノ裁判所ニ移シテ之ヲ判決セシムルノ後其裁判所亦大審院ノ旨ニ循ハサル時ハ大審院更ニ自ラ之ヲ判

決ス

第四條

陸海軍裁判所ノ裁判權限ヲ越ユル者ハ其裁判ヲ破毀シテ之ヲ當然ノ裁判所ニ付ス

第五條

各判事ノ犯罪其違警犯ヲ除クノ外大審院之ヲ審判ス

第六條

內外交涉民刑事件ノ重大ナル者ヲ審判ス

第七條

各上等裁判所ヨリ送呈（おくりつかわし）スル所ノ死罪按ヲ審閱シ批可シテ送還ス其否トスルモノハ更ニ律ヲ擬シテ還付ス

上等裁判所職制

長一人

勅任判事ヲ以テ之ニ充ツ

所長ハ課ヲ分チ主任ヲ命シ隨時各庭ニ臨ミ民刑專件ヲ聽理スルヿヲ掌ル

判事

第一　管內ノ控訴ヲ受ケ之ヲ覆審（しらべはし）スルヿヲ掌ル

第二　管內死罪ノ獄ヲ判決スルヿヲ掌ル

判事補

判事ヲ判事ニ受ケ審判スルヿヲ掌ル

屬

上等裁判所章程

第一條

上等裁判所ハ地方裁判所ノ裁判ニ服セスシテ控訴スル者ヲ覆審ス

第二條

各地方裁判所ヨリ具スル所ノ死罪ヲ判決シテ大審院ノ批可ヲ取リ然ル後原裁判所ニ付シテ宣告セシム

第三條

各地方裁判所ヨリ送呈スル所ノ終身懲役罪案ヲ審批ス

地方裁判所職制

長一人

奏任判事ヲ以テ之ニ充ツ

所長ハ課ヲ分チ主任ヲ命スルコヲ掌ル他ハ判事ニ同シ

判事

民事ヲ初審シ刑事懲役以下ヲ審判スルコヲ掌ル

判事補

事ヲ判事ニ受ケ審判スルコヲ掌ル

地方裁判所章程

第一條

地方裁判所ハ一切ノ民事及刑事懲役以下ヲ審判ス

第二條

地方裁判所ニ於テ審判シタル民事ハ輕重トナク皆初審

トス

第三條

民刑事ノ內外ニ交渉シタル者ハ其輕キハ直ニ之ヲ裁決シ其ノ重キハ一面之ヲ聽理シ一面之ヲ司法卿ニ具申スヘシ

第四條

死罪ハ審訊シテ文案讞憑及ヒ擬律案ヲ具ヘ上等裁判所ニ遞送シ其行下ヲ得テ宣告ス

第五條

終身懲役ハ擬律案ヲ具ヘテ上等裁判所ノ審批ヲ取リ然ル後ニ宣告ス

控訴上告手續

第一章

控訴ノ事

第一條　凡ソ地方裁判所ノ初審ニ服セスシテ再ヒ上等裁判所ニ訴ヘ覆審ヲ求ムル者之ヲ控訴ト云

第二條　控訴ハ民事ニ止マリ刑事ニ及ハス

第三條　控訴ハ一タヒスルコトヲ得再ヒスルコトヲ得ス

第四條　地方裁判所ニ於テ裁判ノ言渡ヲ爲シタル時原告被告ノ雙方又ハ一方ノ者其裁判ニ不服ナル時ハ裁判言渡ヨリ第七日マテニ（裁判言渡ノ翌日ヨリ數フ）裁判言渡ノ事理ヲ熟考シ其翌日ニ至リ控訴スルコトヲ得ヘシ但シ訴訟ノ案件商事ニ係リ急速ニ控訴スルコトヲ要スルノ場合ニ於テハ七日內ト雖モ控訴スルコトヲ得

第五條　地方裁判所ノ裁判言渡ヨリ三箇月（三十日ヲ以テ一月トス）ヲ過ルヲハ控訴スルヲ許サス但シ地方裁判所ヨリ上等裁判所ニ至ルノ距離八里（みさと）外八里毎ニ一日ノ猶豫ヲ増スヘシ

第六條　控訴ヲ爲ス者ハ其初審ヲ受ケタル地方裁判所ニ届ケ出ッヘシ但シ添翰（そへぶみ）ヲ乞フニ及ハス

第七條　前條ノ届ヲ受ケ取リタル地方裁判所ハ裁判言渡ノ執行ヲ停止スヘシ若シ上等裁判所ノ請求アル時ハ地方裁判所ニ於テノ訴狀答書口書裁判見込等ヲ差出スヘシ

第八條　上等裁判所ニ捧クルノ訴狀ハ訴答文例ニ照準スヘシ

第二章　上告總則ノ事

第九條　各裁判所ノ終審ヲ不法ナリトシ大審院ニ向テ取消ヲ求ムル者之ヲ上告ト云

第十條　上告スルヲ得ルノ事件ハ

第一　裁判所管理ノ權限ヲ越ユ

第二　聽斷ノ定規ニ乖（そむ）ク

第三　裁判法律ニ違フ

第十一條　大審院ハ上告ヲ受クルノ所ニシテ控訴ヲ受クルノ所ニアラス故ニ控訴スヘキノ事ヲ以テ誤テ上告スル者アルモ之ヲ斥（しりぞ）ケテ理セス

第十二條　陸海軍ノ裁判權限ヲ越ル者ハ之ヲ大審院ニ上告スルヲ得

第十三條　凡ソ上告シタル者已ニ大審院ノ判決ヲ經レ

ハ更ニ訴フルコヲ得ス

第三章　民事上告ノ事

第十四條　民事ノ上告スルコヲ得ル者ハ已ニ上等裁判所ニ控訴シ其審判ヲ經タル者ニ限ル

第十五條　上告ヲ爲ント欲スル者ハ裁判言渡ヨリ二月内ニ上告狀ヲ大審院ニ棒クヘシ而メ同時被告人ニ通知スルヲ要ス若シ原裁判所ヨリ大審院ニ至ルノ距離八里ヨリ遠キ時ハ二月ノ外八里毎ニ一日ヲ增ス此定期ヲ過レハ上告スルコヲ許サス

上告狀中ニハ必ス左ノ事實ヲ記載スヘシ

第一　原告人ノ住所身分氏名

第二　代言人アレハ其住所身分氏名

第三　被告人ノ住所身分氏名

第四　証人又ハ引合人アレハ其住所身分氏名

第五　地方裁判所ニ出訴シ又ハ被告ニテ呼出サレタル年月日及ヒ裁判言渡ヲ受ケタル年月日

第六　上等裁判所ニ控訴シ又ハ被告ニテ呼出サレタル年月日及ヒ裁判言渡ヲ受ケタル年月日

上告狀ハ正本一冊及ヒ副本五册ヲ差出スヘシ

上告狀ニハ必ス左ノ書類ヲ添ヘ差出スヘシ

第一　地方裁判所ニ於テノ訴狀幷ニ答書ノ寫及ヒ裁判言渡書ノ寫

第二　上等裁判所ニ於テノ訴狀幷答書ノ寫及ヒ裁判言渡書ノ寫

第三　上告狀中ニ憑據トナス書類ノ寫ノ各書類ニ

番號ヲ朱書シ綴シテ一冊ト爲シ又ハ葉數多ニ付綴シテ幾冊ト爲シタル者

右ノ訴狀又ハ答書及ヒ憑據ノ書類ノ寫ヲ所持セサル者ハ原裁判所ニ出願シ裁判所ノ簿册ヲ訟庭ニ取下ケ見坐ノ目前ニ於テ之ヲ寫シ取ルコヲ得ヘシ

若シ原裁判所ニ於テ書類寫取ノ出願ヲ許サヽルニ因リ上告人其寫ヲ出シ能ハサル時ハ其旨ヲ上告狀中ニ記載スヘシ

第十六條　上告者ハ其上告狀ニ添テ金拾圓ヲ大審院ニ預クヘシ若シ其金高ヲ預ケサルトキハ上告ヲナスコヲ得ス

第一　若シ上告ヲ取上ケサル時ハ其預リ金ヲ沒入ス

第二　若シ上告ヲ取上ケ原裁判ヲ破毀シタル時ハ預リ金ヲ還付ス

第三　若シ上告ヲ取上ケ被告人ト對審シタルノ後之ヲ斥ケテ原裁判ヲ破毀セサル時ハ預リ金ヲ沒入シ又訴訟入費規則ニ照シテ被告人ノ費用ヲ償ハシムヘシ（被告人トハ上告者ノ相手方ヲ云）

第十七條　上告ヲ爲ス者ハ先ツ原裁判所ニ届出ツヘシ

原裁判所ニ於テハ書類ヲ三日内ニ大審院ニ遞送スヘシ

第十八條　上告ニ付テハ裁判ノ執行ヲ停メス大審院已ニ原裁判ヲ破毀スルニ至レハ即日原裁判所ニ通報シテ（大審院ヨリ郵信ヲ發ス）執行ヲ止メ更ニ審判落着ノ日ニ至テ前ノ裁判ヲ取消シテ後ノ裁判ヲ執行セシムヘシ

但內國人ヨリ裁判外ノ人民ニ對シ又ハ裁判外ノ人民ヨリ內國人ニ對スル上告ハ原裁判ノ執行ヲ停ムヘシ

第十九條　上告狀ハ原告人自ラ之ヲ捧クルモ又ハ代言人ヲシテ之ヲ捧ケシムルモ本人ノ意ニ任ス

第二十條　大審院ニ於テ判事審聽シ不當ナル上告ナリト決スル時ハ何々ノ理由ヲ以テ上告ヲ受理セサルノ旨ヲ言渡スヘシ

第二十一條　判事審聽シテ當然ノ上告ナリトシ之ヲ判決スヘキ旨ヲ言渡シタル時ハ其後二日內ニ被告人呼出狀ヲ仕出ス可シ此ノ呼出狀ニハ上告狀ノ副本ヲ添フヘシ

第二十二條　被告人ハ呼出狀ヲ受取リタルヨリ三十日內ニ答辨書ヲ作リ自身又ハ代言人ヨリ之ヲ大審院ニ捧クヘシ但被告人ノ住所ヨリ大審院ニ至ルノ距離八里ヨリ遠キトキハ八里毎ニ一日ヲ增スヘシ

第二十三條　大審院ニ於テ被告人ノ答辨書ヲ受取リシトキハ院長ヨリ判事ノ中ニ於テ一人ノ主任ヲ命シ一件書類ヲ取纏メ遲緩ナク一件始末書ヲ作ラシメ然ル後ニ原被對審ノ日ヲ豫定シ三日以前ニ原被對審ノ呼出狀ヲ原被雙方ニ送達スヘシ

第二十四條　原被對審ノ節ハ判事席ニ臨ミ最初ニ主任判事一件始末ヲ宣讀シ次ニ原告ノ陳述次ニ被告ノ陳述次ニ原被交互ノ論辨ヲ審聽シ而シテ後ニ原告人上告理アリト決スルトキハ何々ノ理由ヲ以テ原裁判所ノ裁判ヲ破毀スルニ付更ニ某裁判所ニ於テ裁判ヲ受ク

ヘキ旨又ハ大審院ニ於テ裁判スヘキ旨ヲ言渡スヘシ

第二十五條　若シ原告人ノ上告理ナシト決スルトキハ何々ノ理由ヲ以テ上告ヲ斥クル旨ヲ言渡スヘシ

第四章　刑事上告ノ事

第二十六條　違警罪及死罪ヲ除クノ外一切ノ刑事皆上告スルヿヲ得

第二十七條　刑事ニ付キ上告スルヿヲ得ヘキノ人

第一　刑ノ言渡シヲ受ケタル者

第二　撿事（撿事ナキノ地方ハ警察官之ニ代ルヿヲ得）

第二十八條　刑ノ言渡シヲ受ケタル者上告ヲ爲サント欲スル時ハ其言渡ヨリ第三日迄ニ（三日間ハ決行セス）上告願狀ヲ其裁判所ニ捧ケ又第十日迄ニ上告趣意明細書ヲ捧クヘシ

但裁判所ハ決放（しゅきゑう）ヲ執行スル所ノ地方官ニ其事ヲ達スヘシ

第二十九條　撿事ノ上告セント欲スル者ハ裁判言渡ヨリ二十四時ノ内ニ上告ヲ爲スヿヲ刑ノ言渡シヲ受タル者ニ達シ又第十日迄ニ上告趣意明細書ヲ作リ之ヲ司法卿ニ遞送スヘシ

但撿事ハ上告ヲ爲スヿヲ決放ヲ執行スル所ノ地方官ニ通知スヘシ

第三十條　撿事及刑ノ言渡ヲ受タル者上告ノ期ヲ過ル時ハ上告ノ權ヲ失フヘシ

第三十一條　決放ヲ執行スル所ノ地方官ハ刑ノ言渡ヲ受タル者若クハ撿事ヨリ上告スルヿヲ達シタルトキハ

決行ヲ止メ以テ上告ノ落着ヲ待チ獄舍ニ於テハ其刑ノ言渡ヲ受タル者ヲ別舍ニ勾置スヘシ（別舍ナキ者ハ便宜ニ隨ヒ監護スルヲ要ス）

第三十二條　刑ノ言渡ヲ受タル者自ラ上告狀ヲ書記スルヿ能ハサル時ハ代理人ヲ獄中ニ延キ（獄中ヲ劃リテ應接所ヲ設ケ他ノ囚人ト混セサルヲ要ス）上告趣意明細書ヲ代書セシムルヿヲ得其代理人ハ明細書ニ本人ト共ニ姓名ヲ記ス可シ本人自ラ姓名ヲ記スルコト能ハサルトキハ其事ヲ肩書スヘシ

但代理人ヲ獄舍ニ延クトキハ之ヲ看守者ニ告ケ看守者ハ之ヲ裁判所ニ届クヘシ

第三十三條　刑ノ言渡ヲ受タル者幼年（十五年未滿ヲ云）ニシテ上告ヲ爲スノ權利アルヿヲ知ラサルトキハ其親族（五等親ヲ云）代リテ爲ニ上告スルヿヲ得

第三十四條　裁判所ニ於テ上告趣意明細書ヲ受取タルトキハ其文書類ヲ幷セテ三日内ニ之ヲ大審院ニ遞送スヘシ

第三十五條　大審院ハ上告ヲ審按シ上告不當若クハ理ナシト決スルトキハ理由ヲ付シタル判文ヲ原裁判所ニ發付シ上告人ニ傳達セシメテ後決行セシム上告理アリト決スルトキハ原裁判ヲ破毀シテ更ニ它ノ裁判所ニ移シ若クハ大審院自ラ之ヲ審判スヘキノ旨ヲ判シ若クハ單ヘニ其擬律ヲ平翻（さはさらは）シテ原裁判所ニ發付（さしつかは）シ處分セシム其判文ハ並ニ理由ヲ付スヘシ

第三十六條　撿事上告スル時ハ趣意明細書及其文書類ヲ直ニ司法卿ニ遞送シ司法卿ハ上告趣意明細書及其文書類ヲ相當ノ撿事ヲシテ之ヲ大審院ニ付セシメ大

審院ニ於テ判文已ニ成ルヤハ司法卿ヲ經由シテ原裁判所ニ付シ處行セシム

第二拾號

藥品中性効峻烈ニシテ若其用方ヲ誤ル時ハ人命ヲ傷害スヘキモノ少カラス然ルヲ或ハ輕忽ノ取扱有之候テハ實ニ不容易儀ニ付右取扱規則左之通相定候條此旨布告候事

明治十年二月十九日

右大臣岩倉具視

（別紙）

毒藥劇藥取扱規則

一藥品中其効力峻劇ニノ直ニ生命ヲ傷害スルニ足ルヘキ者ヲ毒藥（ドクヤク）ト唱ヘ其性効毒藥ノ如ク強烈ナラサルモ其用量ニ依テ容易ク危害ヲ生スヘキモノヲ劇藥（ゲキヤク）ト稱ス其目如レ左

毒藥

亞砒酸
昇汞　（第二コロール汞）
赤降汞　（赤色酸化汞）
第二沃汞（第二ヨード汞）　赤色ノ者
燐　（ポスポル）
青酸加里（シヤンカーリウム）
ホーレル水（亞砒酸カリ水）　其他砒石製劑
白降汞　（コロールアミツト汞）
第一沃汞（第一ヨード汞）　黃色ノ者
硝酸亞酸化汞
青酸　（シヤン水素酸）
アトロピーネ　其他アトロピーネ鹽類

劇藥

ヨード　其他ヨード製劑
ヨード加里（ヨードカーリウム）
腐蝕加里（苛性加里）
皓礬　（硫酸亞鉛）　其他亞鉛製劑
鹽化金ナトリウム　其他金製劑
贈礬　（硫酸銅）
甘汞　（第一コロール汞）
硫酸ガドミユーム
ストリキニーネ　其他ストリキニーネ鹽類
アコニチネ
揮發苦扁桃油（蒸餾シ得タルモノ）
コロヽフオルム

劇藥

ブローム
臭素加里（ブローム加里）
腐蝕ソーダ（苛性ソーダ）
硝酸銀　其他銀製劑
鉛糖　（醋酸鉛）　其他鉛製劑
銅礬礬　（硫酸アンモニヤ銅）　其他銅製劑
ビスミツト（鹽基性硝酸蒼鉛）　其他アンチモン製劑
吐酒石

硝酸
蓚酸
コロラルヒドラート
サントニーネ(セメンソート)
苦扁桃水
巴豆
芥子油
阿片 其他製劑
雙鸞菊球根仝
莨菪葉仝
ヒヨス葉仝
シキユータ葉仝
サビナ葉仝

硫酸
鹽酸
石炭酸
ヨードフオルム
老利兒水(ラウリールケルス水)
巴豆油
コロダイン
吐根仝上
ヘルレボリ根(藜蘆)仝
ヤーラツパ根及ヒ脂仝
ジキタリス葉仝
蔓陀羅華葉仝
コロシント實仝

コルシクム實仝
班猫(芫菁)仝
カラバル豆仝
番木鼈子仝

右ハ現今日常使用スル所ノ毒藥十九種劇藥四拾六種ヲ掲ルモノニシテ專ラ世人ノ解シ易キガ爲ニ普通ノ名稱ヲ用フ此他新發明新舶載ノ藥品及ヒ其性効ノ確知シカタキモノハ先ツ司藥場ニ出シテ試驗ヲ受ケ藥効ノ劇易ヲ判シタル上ニアラサレバ販賣スルヿヲ許サス

一毒藥劇藥ハ在來商標ノ外別ニ必ス本邦普通ノ名稱(或ハ假名ニテ原名ヲ)ヲ記シタル名標ヲ貼附スヘシ

一毒藥劇藥ハ別段ニ戸棚或ハ箱等ヲ製シテ之ヲ貯藏シ他ノ藥品ト混雜スヘカラス

一毒藥劇藥ハ醫師ノ處方書ニ據テ調合スルノ外醫師藥商化學家及ヒ工職家ヨリ需要ノ趣意ヲ記シタル證書

ヲ以テ求ムルニ非サレハ決メ販賣スルヲ許サス

一前條ノ規則ニ據リ毒藥劇藥ヲ販賣スルトキハ其藥名分量年月日及ヒ買人ノ住所姓名ヲ別帳ニ記載シ買人ヨリ送ル所ノ證書ヲ貯ヘ置ヘシ

但幼少ノ者及聾者等其他不能力ノ者ニハ一切付與スヘカラズ

一醫師ノ處方書ニ據テ毒藥ヲ調合シタルトキハ其藥名分量用法年月日醫師及ヒ患者ノ住所姓名ヲ別帳ニ詳記シ處方書ヘ割印スヘシ

一毒藥劇藥ヲ取扱タル調劑器ハ其時々必ス丁寧ニ洗淨拭清スヘシ且ツ砒石及ヒ水銀劑ノ用器ハ他ノ藥品ノ用ニ當ツヘカラス

右之規則ニ戻リテ毒藥劇藥ヲ販賣シタルモノハ五拾圓以内ノ罰金ヲ科スヘシ

右之通被仰出候條管内無漏相達者也

明治十年二月廿四日

京都府知事槇村正直

第六十八號

第貳拾壹號

今般鹿兒島縣下暴徒征討被仰出候ニ付テハ右ニ關シタル無根ノ傳說等妄ニ新聞紙ニ揭載不相成候此旨布告候事

明治十年二月十九日

右大臣岩倉具視

右之通被仰出候條管內無漏相達者也

明治十年二月廿四日

京都府知事槇村正直

第貳拾貳號

變死ニ係ル屍ヲ警察官吏檢査スル時ニ於テ解剖ヲ行ハサレハ其致命ノ原由ヲ確知シ難キ旨醫師申立ル時ハ檢事（檢事派出ナキ地方ハ其地方長官）ノ許可ヲ受ケ其部分ヲ解剖檢査セシムルコヲ得

右布告候事

明治十年二月廿一日

右大臣岩倉具視

右之通被仰出候條管内無洩相達者也

明治十年二月廿六日

京都府知事槇村正直

甲第六號

今般國立銀行條例ヲ遵奉シ福島縣管下第一區福島町本通七丁目百七拾六番地ニ於テ設置シタル第六國立銀行ニ於テ公債証書ヲ抵當トナシ更ニ引換準備金ヲ置キ貳拾圓拾圓五圓貳圓壹圓五種ノ紙幣ヲ發行セシメ右本店ニ於テ通貨ヲ以テ交換爲致候條公債証書ノ利息ト海關稅ヲ除クノ外租稅其他一切公私ノ取引上總テ無二疑念一受授可レ致此旨布達候事

但シ右紙幣ノ儀ハ明治六年八月第三百四號布告第一國立銀行ニ於テ發行ノ品ト同一ニシテ唯表面銀行ノ名稱地名及頭取支配人ノ名印幷ニ裏面割印ノ異ナルノミニ付別段見本相添ヘサル事

明治十年二月二十一日

右之通達有レ之候條管内無レ洩相達者也

明治十年二月廿六日

大藏卿大隈重信

京都府知事槇村正直

甲第七號

今般國立銀行條例ヲ遵率シ高知縣管下土佐國第八大區一小區種崎町百八拾二番地ニ於テ設置シタル第七國立銀行ニ於テ公債證書ヲ抵當トナシ更ニ引換準備金ヲ置キ貳拾圓拾圓五圓壹圓五種ノ紙幣ヲ發行セシメ何時ニテも人民ノ望ニ應シ右本店ニ於テ通貨ト交換爲レ致候條公債證書ノ利息ト海關稅ヲ除クノ外租稅其他一切公私ノ取引上總テ無二疑念一受授可レ致此旨布達候事

但右紙幣之儀ハ明治六年八月第三百四號布告第一國立銀行ニ於テ發行ノ品ト同一ニシテ唯表面銀行ノ名稱地名及頭取支配人ノ名印并ニ裏面製印ノ異ナルノミニ付別段見本相添ヘサル事

明治十年二月二十二日

右之通達有レ之候條管内無レ漏相達者也

明治十年二月廿六日

大藏卿大隈重信

京都府知事槇村正直

行在所達第五號

今般鹿兒島縣下逆徒征討被仰出候御趣意ハ本年一月廿一日夜陸海軍省所屬鹿兒島縣下ノ彈藥庫ヘ逆徒多人數不意ニ押入貯蓄ノ小銃彈藥多數奪取猶又二月二日三日ノ雨夜同所ヘ亂入監護ノ官吏ヲ暴辱シ銃器彈藥ヲ始メ倉庫ニアル所ノ物品悉皆掠奪致シ且海軍省所管同所造船所ヲモ奪取標札ヲ揭ケ改メ其上同月八日郵便船太平丸琉球ヨリ歸航鹿兒島港ヘ碇泊候ヲ差押ヘ乘組官員ヲ抑留致候ノミナラス多衆嘯聚兵器ヲ弄シ各所ニ徘徊スル等不容易形狀ニ相聞ヘ候ニ付現狀取糺ノ爲メ河村海軍大輔林内務少輔ヲ高雄丸ニ爲乘組鹿兒島表ヘ被差遣雨人着港之上縣官ヘ使ト シテ屬官二員上陸セシメ候

處逆徒等忽チ右二員ヲ拘留シ剰ヘ銃器ヲ携ヘ小船數艘ニテ該船ヘ迫リ來リ直ニ小銃ニ裝彈該船ヘ可打掛形狀ニ付一旦其場ヲ出艇近傍海岸ニ被錨シ大山縣令ヘ面會之上事情取糺シ候處逆徒等前文鄕藥掠奪暴擧ノ後俄ニ當時詰縣致シ居候警察官吏數名ヲ捕縛糺問ノ上口供ヲ要シ妄說ヲ以悖亂ノ名ヲ偽リ人心ヲ煽動シ兇徒ヲ嘯聚スル等不軌ノ形跡判然タルヲ見認メ兩人直チニ歸京上奏ニ及ヒ候ニ付猶取糺シ之上至當之御處分ニ可被及叡慮ニ候處遂ニ去ル十八日西鄕隆盛桐野利秋篠原國幹等政府ヘ尋問ヲ名トシ逆徒ヲ引率シ兵器ヲ携帶セシメ熊本縣下ヘ亂入候我國憲ヲ蔑如シ治安ヲ妨害スルノ擧動頗ル叛跡顯然ニ付深ク

御震怒被爲在邦典ヲ擧行シ逆徒征討被　仰出候次第ニ候條尊ク御趣意ヲ奉體シ此際訛言流說ニ疑惑不致樣管下人民ヘ懇諭シ取締方一層注意可致此旨更ニ相達候事

明治十年二月廿五日

太政大臣三條實美

右之通被　仰出候條訛言流說ニ疑惑セス取締リ向嚴肅ニ相心得自然如何敷風說等唱ル者アラハ最寄出張所ヘ速ニ可申出候事

明治十年二月廿七日

京都府知事槇村正直

甲第三號

昨明治九年十月ヨリ本年一月マテ郡界ノ更正左之通ニ候條此旨布達候事

明治十年二月十六日

内務卿大久保利通代理

内務少輔前島　密

豫木縣下下野國都賀郡葛生町會澤村豐代村仙波村牧村西鉾村ヲ同國安蘇郡へ編入同郡下永野村上永野村上粕尾村中粕尾村下粕尾村足尾村新里村古江村下津原村鹿岡村ヲ都賀郡へ編入

千葉縣下上總國山邊郡粟生野村新田ヲ同國長柄郡へ

編入

三重縣下伊勢國飯野郡保津村ノ内美久里野新田ヲ同國多氣郡へ編入馬ノ上村へ合併

靜岡縣下駿河國志太郡小川村飛地字通越ヲ益津郡へ編入綯ヶ島村へ合併同國安倍郡北長沼村ヲ有渡郡へ編入南長沼村へ合併長沼村ト改稱

福岡縣下筑後國下妻郡犬馬場村ヲ同國上妻郡へ編入川合村へ合併川犬村ト改稱

堺縣下大和國山邊郡杉原村ヲ同國添上郡へ編入北野村西方北野村奥方へ合併北野村ト改稱

大分縣下豐後國大分郡種貝村迫村志村ヲ海部郡へ編入同郡大津留村毛井村ヲ大分郡へ編入同國直入郡今市村ヲ大野郡へ編入

右之通達有之候條管內無洩相達者也

明治十年二月廿七日

京都府知事槇村正直

第七十四號

昨九年當府第五百號ヲ以相達候警保區域方面出張所幷派出所等ノ名義今般左之通改稱候條爲ニ心得一管內無レ洩相達者也

但區域方面受持之義ハ從前之通ニ候事

明治十年二月廿八日

京都府知事槇村正直

元第壹區域方面出張所ヲ

一 上京警察署

元第貳區域方面出張所ヲ

一 下京警察署
元第三區域方面出張所ヲ
一 伏水警察署
元第四區域方面出張所ヲ
一 木津警察署
元第五區域方面出張所ヲ
一 園部警察署
元第六區域方面出張所ヲ
一 福知山警察署
元第七區域方面出張所ヲ
一 宮津警察署
元第八區域方面出張所ヲ
一 峯山警察署

元第五區域方面派出所ヲ
一 園部警察署 龜岡分署
元第六區域方面派出所ヲ
一 福知山警察署 綾部分署
元第七區域方面派出所ヲ
一 宮津警察署 舞鶴分署
元第八區域方面派出所ヲ
一 峯山警察署 久美濱分署

第七拾五號　亥八一

第貳拾三號

本年一月第貳號ヲ以テ民費賦課ノ儀布告候處右ハ會計年度ノ都合モ有レ之ニ付本年七月ヨリ施行候儀ト可ニ心得一此旨布告候事

明治十年二月廿四日

右大臣岩倉具視

右之通被ニ仰出一候條管内無レ漏相達者也

明治十年二月廿八日

京都府知事槇村正直

第七拾六號

來ル三月十五日午前第九時舊
大宮御所内ニ於テ博覽會開場式執行候條當日入場之モ
ノ右式縱觀可レ致此旨爲ニ心得一相達候事
一當日院參町通ニ於テ出シ店並興行物等勝手次第之事
但當日院參町通ニ於テ出店興行物ハ借地料府税差
許候事
右之通管内無レ洩相達者也

明治十年三月一日

京都府知事槇村正直

第貳拾四號

明治八年九月第百四拾四號ヲ以テ御國内西洋形船舶普通信號等ノ儀及ニ布告一置候處今般右專務内務省ヘ令二管理一候條右關係ノ儀ハ總テ同省ヘ可二申出一此旨布告候事

明治十年二月廿七日

右大臣岩倉具視

右之通被二仰出一候條管内無レ漏相達者也

明治十年三月三日

京都府知事槇村正直

京都府布令書明治十年三月第七十七號

第七十八號

甲第八號

明治六年八月太政官第三百四號公布ヲ以被下渡候第一國立銀行紙幣見本ノ内左ノ番記ノ通紛失候旨福岡縣ヨリ申出候條若番記符合ノ紙幣見當候ハヽ其所持人姓名宿所等詳細取糺シ速ニ其管轄廳ヘ可申出此旨布達候事

明治十年二月二十七日

大藏卿大隈重信

右之通達有之候條右番記號之品見當リ候ハヽ當府又ハ最寄之出張所ヘ速ニ可届出此旨管内無洩相達者也

明治十年三月三日

京都府知事槙村正直

紛失銀行紙幣見本番號

壹圓紙幣記號A子　番號　八四七一　壹枚
貳圓紙幣記號A子　番號　八五貳二　壹枚
五圓紙幣記號A子　番號　一八一六一六　壹枚
拾圓紙幣記號A子　番號　二七八五二七八五　壹枚
貳拾圓紙幣記號A子　番號　三七五四三七五四　壹枚
　　番號　四七二三四七二三　壹枚
　　番號　四七二八四七二八　壹枚

合計七枚

右何レモ見本ノ証トシテ四隅ニ孔ヲ穿チ朱肉ヲ以見本ノ貳字押捺有之候也

甲第九號

今般國立銀行條例ヲ遵奉シ愛知縣管下第拾七區三河國渥美郡豐橋本町拾壹番地ニ於テ設置シタル第八國立銀行ニ於テ公債証書ヲ抵當トナシ更ニ引換準備金ヲ置キ貳拾圓拾圓五圓貳圓壹圓五種ノ紙幣ヲ發行セシメ何時ニテモ人民ノ望ニ應シ右本店ニ於テ通貨ト交換爲致候條公債証書ノ利息ト海關稅ヲ除クノ外租稅其他一切公私ノ取引上總テ無疑念受授可致此旨布達候事

但右紙幣ノ儀ハ明治六年八月第三百四號布告第一國立銀行ニ於テ發行ノ品ト同一ニシテ唯表面ノ名稱地名及頭取支配人ノ名印幷ニ裏面割印ノ異ナルノミニ付別段見本相添ヘサル事

明治十年二月二十七日

大藏卿大隈重信

右之通達有レ之候條管內無レ洩相達者也

明治十年三月三日

京都府知事槇村正直

第貳拾五號

懲役人又犯罪條例外律例共左之通改正候條此旨布告候事

明治十年三月二日

右大臣岩倉具視

懲役人又犯罪條例

凡懲役終身ノ囚人又壹年以上ノ罪ヲ犯ス者ハ四日以上七日以下ノ棒鎖(ばうさ)改テ四日以上六日以下ノ棒鎖五年以上ノ罪ヲ犯ス者ハ八日以上十日以下ノ棒鎖改テ七日以上九日以下ノ棒鎖懲役終身ノ罪ヲ犯ス

者ハ絞(かう)改テ棒鎖十日

強盜律

凡強盜兇器(ひとをころしうつは)ヲ持セス人ヲ殺傷スル者ハ皆斬絞ニ處スル律ヲ改メ殺ス者ハ斬傷スル者ハ懲役終身

其兇器ヲ持スル者ハ財ヲ得スト雖モ首(かしら)ハ絞從(つれしか)ハ懲役終身改テ首ハ懲役終身從ハ懲役十年財ヲ得ル者ハ皆斬改テ皆懲役終身其財ヲ得スト雖モ人ヲ殺傷スル者亦同シ改テ殺ス者ハ皆斬傷スル者ハ皆懲役終身

若シ盜ニ因テ姦スル者ハ成否(あるあらぬ)ヲ論セス絞改テ懲役終身

竊盜律

若シ盜ニ因テ過失殺スル者ハ絞改テ懲役終身

僞造寶貨律

凡寶貨(かね)ヲ僞造(にせづくり)シ已ニ行使(つかひはひ)スル者首ハ斬改テ懲役終身從及ヒ匠人(さいくにん)若クハ情(いりわけ)ヲ知テ買使スル者ハ懲役終身改テ懲役十年其雜役ニ供スル者ハ懲役十年改テ懲役七年

罪人拒捕律

捕吏(とりて)ヲ歐(う)チ折傷以上ニ至ル者ハ絞改テ懲役終身

懲役人逃條例

凡懲役終身ノ囚人再ヒ逃走(にげかくれ)スル者ハ絞改テ棒鎖十日

右之通被ニ仰出一候條管內無レ洩相達者也

明治十年三月六日

京都府知事槇村正直

甲第十號

愛知縣下秩祿公債證書容歲紛失ノ旨甲第二號ヲ以相達置候内鈴木驛次所持貳拾五圓ら印一二〇三番壹枚同縣下ニ於テ發顯候段届出候條此旨布達候事

明治十年三月二日

大藏卿大隈重信

右之通達有之候條管内無洩相達者也

明治十年三月六日

京都府知事槇村正直

京都府布令書明治十年三月第八十一號 ○

第貳拾六號

內國製ノ摺附木當分ノ內無稅輸出差許候條此旨布告候事

但輸出稅賦課ノ節ハ二ケ月前ニ布告スヘキ事

明治十年三月三日

右大臣岩倉具視

右之通被仰出候條管內無之洩相達者也

明治十年三月八日

京都府知事槇村正直

第八十三號

今般假中學內諸學校規則及ヒ學資定等別紙之通改正候條爲ニ心得一此段管內無レ漏相達者也

明治十年三月八日

京都府知事槇村正直

假中學內 諸學校規則

目次

第一章 入學規則 四條
第二章 教場規則 十二條
第三章 教場生徒心得 七條
第四章 舍中規則 十條
第五章 舍中生徒心得 五條
第六章

舍中當直規則　十條
第七章　守門規則　三條
第八章　學資定等　十二條

第一章　入舍學規則

第一條

入舍學ヲ願フ者ハ試驗ノ上小學下等課業相當ノ力アレハ入舍學ヲ許ス

第二條

入舍學期限ハ小學大驗査ノ後トス

但本條ノ通定ムト雖モ現場生徒ノ憎滅ニヨリ臨時布達シテ入學セシムルコトアルヘシ

第三條

入學ヲ願フ者區戸長ノ内一人保証ニ相立願書書式一號ヲ學務課ニ出スヘシ

但管外生ト雖モ府下寄留所ノ區戸長ノ保証タルヘシ

第四條

入學舍願書書式第一號　用紙美濃罫紙ニテ二通ヲ出スベシ

本貫住所
族
何學　姓名
當何年何月
何年　何月

右入學并入舍奉願候以上　但通學ノ者ハ幷入舍ノ三字ヲ刪ル

年號月日
何京
何郡　第何區區長又ハ何町何村戸長
証人　姓名印

長官宛

証書々式第二號

用紙美濃紙六ツ切ニテ一枚ヲ出スベシ

証

本貫住所
族
何學　姓名
當何年何月何年何月

右入學舍御許可被成下候上ハ校中御規則屹度爲相守可申者勿論身元萬端引受可申候以上

年號月日
何京
何郡　第何區々長又ハ戸長
姓名印

第二章　教場規則

第一條

教授時間ハ午前第九時ヨリ午後第三時迄トス暑中ハ午前第六時ヨリ十二時迄トス

但會讀當日ハ適宜ニ之ヲ設ク其時間午後四時ヨリ同五時迄トス但算術教場ハ此例ニアラス

第二條

通學生徒ハ午前第八時迄ニ着校スヘシ暑中ハ午前第六時トス

第三條

通學生徒疾病事故ニテ欠席スル者ハ其事由詳細本校主任ノ者ヘ保証人ヨリ届書ヲ出サシムヘシ

第四條

兼學スル所ノ諸教場ト雖モ斷ナク欠席スルヲ許サス若不得止事故アリテ欠席スル者ハ本校主任者ノ檢印書ヲ以テ其欠席スル教場ノ主任者ヘ相斷ヘシ

第五條

雜話高聲他人ノ業ヲ妨ルヲ許サズ

第六條

教場裝置ノ書籍器械ハ教師并本校主任者ノ許可ヲ經ズシテ使用スヘカラズ

第七條

貸附ノ書籍器械窓戸柱壁等ヲ破毀汚瀆セシ者相當ノ修復料ヲ收メシム

第八條

校内ノ樹木ニ登リ又ハ伐折スルヲ許サズ

第九條

校内ニテ瓦石等ヲ擲ツヲ許サズ

第十條

休日定式

孝明天皇祭　一月　卅日
紀元節　二月十一日
神武天皇祭　四月　三日
神嘗祭　九月十七日
天長節　十一月三日
新嘗祭　十一月廿三日
日曜日
夏期八月中
冬期十二月廿三日ヨリ一月六日迄トス
但臨時休業ハ其時々掲示スベシ

第十一條

規則ヲ確守セシムル爲メ其犯セル所ノ輕重ニ隨ヒ懲戒法ヲ設クル左ノ如シ

懲戒規則　二款

第一款

規則中第三條第五條ノ各一條ヲ犯ス者
右五百言ヲ淨寫セシム
料紙自辨タルベシ第二款モ亦同シ

第二款

規則中第四條第六條第八條第九條ノ各一條ヲ犯ス者
右二百五十言ヲ淨寫セシム

第十二條

教師及ヒ本校主任者ノ誘導ヲ拒ミ屢次規則ヲ犯シ到底改良ノ効ナキモノハ府廳ニ上申シテ處分ヲ乞フ

第三章

教場生徒心得

第一條

教場ニ於テハ殊ニ無益ノ爭論放恣ノ擧動ヲ戒ム

第二條

高貴ノ各官當府長官學務課長等臨校アレハ宜シク禮ヲ行ヘシ

第三條

擊柝報鼓及ヒ板ヲ聞キテ出場スルニ遲緩ナル勿レ

但教場ノ出入ハ整肅ヲ旨トスヘシ

第四條

受業中猥リニ席ヲ離ルヘカラズ

第五條

本日受業ノ書籍器械携來（たづさへきたる）ヲ遺忘スベカラズ

第六條

教場ニ於テ洋製服ヲ着セザル者ハ袴靴（はかまくつ）ヲ着クベシ

但教場ニ入ルニ晴雨ニ論ナク拭靴（くつぬぐひ）甚ニテ靴ヲ滌（あらひ）拭スベシ

第七條

衣服ハ新古美惡ヲ擇ハズト雖モ垢破綻（あかつきやぶれほころび）ノ者ヲ着クベカラズ

第四章

舍中規則（へやうちのきまり）

第一條

入舍生ハ長幼尊卑ヲ問ハス學業ノ等級ニ從ヒ順序ヲ定ム其等級同シキ者ハ入舍ノ前後ニ因ル

第二條

起臥（おき ふし）食浴等ノ時限ヲ定ム左ノ如シ

但午食ハ時月ニ拘ラス總テ正午十二時ヨリ三十分間トス

| | | |

ニ其名札ヲ掛ケ毎夜放課ノ時之ヲ収ムベシ

第七條

舎長ハ食堂ノ正面ニ坐シ生徒ヲ監視シテ不行跡ナカラシムベシ

第八條

監督ハ喫飯中不行跡ヲ監督スルヿ舎長同様タルベシ

第九條

過誤ニアラズシテ食具ヲ破損セシ者ハ之ヲ償ハシム

第十條

舎中懲則左ノ如シ

正課中妄リニ他舎ニ行ク者

教授時間ニ非スシテ教場ニ入ル者

報知ヲ待タズシテ食堂ニ入ル者

運動場外ニテ遊戯スル者

高聲又ハ危害ノ遊戯ヲ爲ス者

校内ニテ瓦石等ヲ擲ツ者

墻塀及屋宇ニ登ル者

校内ノ樹木ヲ伐折スル者

戯作稗史及玩器ヲ舎内ニ持入ル者

就寝時限後雑談音讀等ヲ爲ス者

就寝時限前ニ睡眠スル者

晨起ノ時限ヲ過キテ尚貪眠スル者

門信納受ノ法ニ違フ者

右條則ヲ犯ス者ハ一日舎中ニ禁足

舎長及當直ニ属ケスシテ外出スル者

生徒相互ニ貨幣ヲ借貸スル者

病無キニ舍内ニ於テ喫飯スル者
喧嘩口論ヲ爲ス者
右條則ヲ犯ス者ハ三日舍中ニ禁足
舍内ニテ飲酒スル者
届無クシテ他ニ宿スル者
右一週日間禁足
當直規則ノ條目ヲ犯ス者
妄リニ異見ヲ吐キ舍長ヲ蔑視スル者
監督ノ差圖ニ從ハサル者
怠惰ニシテ他生徒ノ障礙トナル者
數度校則舍則ヲ犯ス者
右ハ府廳ニ上申シテ處分ヲ乞フ

第五章　舍中生徒心得

第一條
入舍生ハ通學生徒ト同カラス專ラ學業ニ從事スルヲ以テ正課ハ勿論私席ニ於テモ精々勉勵シ本校主任者及ヒ舍長ノ差圖ニ從フ可シ

第二條
當直ヨリ報知ナキニ恣ニ食堂ヘ入ル可カラズ

第三條
當直ヨリ報知ヲ得レハ直チニ食堂ヘ上ル可シ
但往返トモ疾走亂屐等爲ス可カラス

第四條
食堂ノ席順ハ學業ノ等級ニ從フヘシ

京都府布令書明治十年三月第八十三號　〇十

第五條

凡外出中ハ殊ニ風俗ヲ正クシ威儀ヲ嚴ニシ言語ヲ愼ミ苟モ學生タルニ耻ツヘキ行ヲ爲ス可ラス

第六章

舍中當直規則

第一條

時々各舍ヲ巡視シ犯則ノ者アレハ舍長ヘ申出可シ

第二條

舍中規則第六條ノ掛札ヲ檢シ逐一勤怠簿ニ記載スヘシ

第三條

晨起就寢起業終業食時等ノ時限擊柝ヲ以テ各社ヘ報知スヘシ

第四條

賄方ヨリ食ノ調フタル通知アレハ當直ノ者直チニ食堂ヘ監臨シ食具ノ潔否ヲ檢シテ擊柝ヲ以テ各舍ヘ來食ヲ報スヘシ

京都府布令書明治十年三月第八十三號、

第五條

舍中洒掃ノ整否ニ注意スベシ若シ舍中不潔ナレハ當直ノ者モ其責ニ任ス

第六條

犯則ノ者ヲ見テ舍長ヘ告ケス他ヨリ露ハル、時ハ本犯ト同樣ノ懲則ニ服スベシ

第七條

當直簿ヲ作リ滿十五歲以上ノ姓名ヲ錄シ其順序ニ從ヒ交番ス若シ病氣等ニテ勤ルコト能サル者ハ快氣ノ後之ヲ補フ可シ

但病起三週間ノ後ニ至ル者ハ幾度當直ヲ欠クト雖更ニ一度ノ補直ヲ以テ法トス

第八條

當直ハ放課中ト雖モ能々注意シ舍中ノ監視ニ怠慢アル可ラス

但放課中ハ勝手ニ運動遊歩ヲ許スト雖モ學生ニ耻可キ行ヒヲ爲ス者ハ見屆ノ上申出ベシ

第九條

每夕鎖門ノ時刻校門ヘ臨監シ未タ歸ラサル生徒ノ門信ヲ改メ舍長ヘ告クベシ

第十條

就寢後ハ各舍ヲ巡視シ火ヲ警ムベシ

第七章

守門規則（もんばんのきまり）

第一條

校門開鎖（かくかうのもん あけたて）ハ黎明（あけがた）黄昏（いりあひ）ヲ以テ定限（さだまり）トス

第二條

門信（ぐいりかんさつ）所持致サヾル生徒ハ外出ヲ許スヘカラス

第三條

歸舍時限ニ後ルヽ生徒アレハ其門信ヲ學務局ヘ出スベシ

第八章

學資定等（かくかういりようのさだめかた）

第一條

學資ハ其身ノ分限（家祿雇人不動産官給）ニ准シ差等（しかわけ）ヲ立ツルニ二種アリ一ハ入校ノ初メ一度限リ出ス者一ハ毎月納ムル者トス

第二條

第一種入校學資金ヲ三等ニ分ツ

下等　祿十石未滿雇五人未滿　金三十錢

中等　祿十石以上雇五人以上　金七十五錢

上等　祿二百石以上雇五十人以上　金壹圓

第三條

第一種三等ノ外無祿又ハ雇人ナキ者ニテ不動産アルハ

金十五錢ヲ納メシム

第四條

第二種學資ヲ八等ニ分ツ

第八等	祿十石未滿雇	金十錢
第七等	祿十石以上雇	金廿錢
第六等	祿三十石以上雇	金廿錢
第五等	祿百石以上雇	金四十錢
第四等	祿二百石以上雇	金五十錢
第三等	祿三百石以上雇	金六十錢
第二等	祿五百石以上雇	金八十錢
第一等	祿千石以上雇	金壹圓

管外生

第五條

第二種八等ノ外無祿又ハ雇人ナキ者ニテ不動産アル者ハ每月七錢五厘ヲ納メシム

第六條

無祿無雇又ハ不動産ナキ者タリ𠮟判任官ノ子弟ハ第八等奏任官ハ第三等勅任官ハ第一等ノ學資ヲ出サシム但第一種三等ノ學資モ判任ハ下等奏任ハ中等勅任ハ上等ヲ出サシム

第七條

管外生ハ家祿雇人ノ有無多寡ヲ問ハス第一種上等第二種第一等ノ學資ヲ出サシム

第八條

二種ノ學資ハ都テ中學內ニ入ル者ハ幾學ヲ兼メル𠮟重ニ及ハス

第九條

凡學資ヲ納メシムルハ家祿屈人不動産官給ノ内其最重キ者ニ就テ納メシム譬ヘハ家祿十石ニメ屈人三十人アレハ屈人ニ就キ之ヲ納メシムルノ類ナリ

第十條

學資ハ毎月三日迄ニ中學出納局ニ納ム

第十一條

事故アリテ全月欠席スルニ其月ノ二日迄ニ届出タル者ハ納費ニ及ハス數月出席セサルモ事由ヲ届ケサルハ欠納ヲ許サス

第十二條

生徒ニシテ教場ノ助ケヲナス者ハ詮議ノ上學資ヲ納メシメサルコトアリ

小兒疾病アレハ溶北三宅八幡へ祈念トシテ發熱痙攣等アル兒ヲ前抱後負シ風雨寒暑ヲ厭ハス遠路ヲ徃返シ爲メニ輕症モ重病トナリ又眼病ヲシテ寒暑ヲ避ケス柳谷ニ參籠シ神佛ヲ祈ルノミニテ醫藥ヲ用ヒス幸ニ死ニ至ラサルモ生涯廢疾トナル等實ニ頑愚ノ所爲ニテ憫然之次第ニ付區戸長克ク其意ヲ了解シ病アレハ良醫ニ就テ治ヲ受クルノ他爲スヘキナキ旨ヲ人民一般ニ告諭スヘシ

右之通管内無レ洩相達者也

明治十年三月八日

京都府知事槇村正直

京都府布令書明治十年三月第八十四號

甲第五號

橡木縣管下下野國都賀郡內野村飛地字仕出之內反別三町壹反三畝貳拾七歩埼玉縣下武藏國埼玉郡小野袋村へ同八反三畝貳歩群馬縣管下上野國邑樂郡海老瀨村へ分割組替國郡之境界ヲ更定候條此旨布達候事

明治十年三月二日

內務卿大久保利通代理

內務少輔前島密

右之通達有レ之候條管內無レ漏相達者也

京都府布令書明治十年三月第八十五號

明治十年三月九日

京都府知事槇村正直

第八十六號

第貳拾七號

外國人傭入候節ハ左ノ通可ニ相心得一此旨布告候事

明治十年三月六日

右大臣岩倉具視

一各官廳ニ於テ外國人雇入候節ハ其國所姓名業務給料住所期限及繼傭解傭共其時々外務省ヘ通知スヘシ

一人民ニ於テ外國人ヲ傭入ント欲スル者ハ其管轄廳ヲ經由シテ前項ノ件々外務省ニ屆出ツヘシ

一私傭外國人ヲ其業務等ノ都合ニヨリ居留地外ヘ居住爲致度者ハ地方官添書ヲ以テ外務省ヘ伺出其許可ヲ受クヘシ

右之通被ニ仰出一候條管内無レ漏相達者也

明治十年三月十二日

京都府知事槇村正直

第八十七號

第三拾三號

警部制服徽章幷巡査用小丸提燈大小區記載方別紙ノ通改正候條此旨相達候事

但本文ノ外ハ總テ明治八年十一月第百九拾四號ノ通

明治十年三月六日

右大臣岩倉具視

右之通被仰出候條管内無漏相達者也

明治十年三月十二日

京都府知事槇村正直

（別紙）

府縣　東京府ヲ除ク

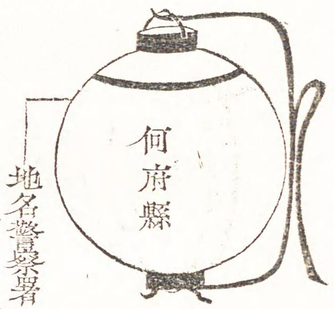
制服表面

一等
二等
三等
警部
以下之ニ倣フ

同裏面

官等	帽章	襟章	袖章	袴章
一等 二等 三等 警部	銀横筋幅二分一筋	銀横筋幅三分一筋	銀幅三分四筋	銀竪筋幅二分一本
四等 五等 六等 警部	同	同	同 三筋	同
七等 八等 九等 警部	同	同	同 二筋	同
十等 警部	同	同	同 一筋	同

巡査用小九



第貳拾八號

人民所有ノ船舶ヲ賣買シ又ハ金穀等借用ノ爲メ書入質トナサントスル時ハ明治八年九月第百四拾八號布告諸建物書入質及賣買讓渡規則ニ準據シ賣主又ハ書入主ヨリ其船ノ圖面ト約定証書ニ本船管轄地戸長ノ公証ヲ受クヘシ若シ右ノ手續ヲ爲サヽルニ於テハ其約定証文ハ裁判上尋常金穀貸借証書ト見做スヘシ

但從前書入質ト爲シタル分ハ當明治十年六月三十日迄ニ本文ノ手續ヲ以テ更ニ約定書改正可レ致尤航海中或ハ不レ得レ止事故アリテ右期日マテニ書換難レ致者ハ其旨豫メ本船管轄地戸長役所ヘ届置クヘシ

右布告候事

京都府布令書明治十年三月第八十八號

明治十年三月八日

右大臣岩倉具視

右之通被二仰出一候條管内無レ漏相達者也

明治十年三月十二日

京都府知事槇村正直

第八十九號

甲第貳號

府縣

昨明治九年四月甲第貳號ヲ以相達候當省所轄造船所定雇職工規則中第貳拾壹條取消候條此旨布達候事

明治十年三月九日

海軍大輔川村純義代理

海軍少將中牟田倉之助

右之通達有レ之候條管内無レ漏相達者也

明治十年三月十二日

京都府知事槇村正直

第貳拾九號

明治八年四月第六拾六號布告內國難破船及漂流物取扱規則第三拾七條左ノ通改正候條此旨布告候事

明治十年三月十日

右大臣岩倉具視

第三十七條

暴風雨等ニテ流失ノ材木ヲ取揚クル時ハ此規則第貳拾九條以下ニ照準シ其代價拾分ノ壹ニ過キサル取揚料ヲ遣スヘシ

第三拾號

本年郵便規則中第百六十一節左ノ通改正候條此旨布告候事

明治十年三月十二日

大藏卿大隈重信

第百六十一節

一爲替証書一枚ノ金高ハ貳拾圓迄ニ限リ端數ハ厘位迄ニ限ルヘキ事

右之通被仰出候條管内無レ洩相達者也

明治十年三月十六日

京都府知事槇村正直

甲第拾壹號

愛知縣下秩祿公債証書客歲紛失ノ旨甲第貳號ヲ以相達置候處同縣下ニ於テ悉皆發顯候段屆出候條此旨布達候事

明治十年三月十二日

大藏卿大隈重信

右之通達有レ之候條管内無レ洩相達者也

明治十年三月十六日

京都府知事槇村正直

第九十二號

第三拾壹號

控訴上告手續中民事上告者預ケ金ノ儀追テ相達候迄差出スニ及ハサル旨明治八年第百號ヲ以布告候處今般控訴上告手續改正候ニ付テハ右布告ハ自カラ消滅候義ト可ニ相心得一此旨布告候事

明治十年三月十三日

右大臣岩倉具視

右之通被ニ仰出一候條管内無漏相達者也

明治十年三月十七日

京都府知事槇村正直

第三拾貳號

各社領朱黒印地幷除地取額中ヨリ從前配當受來候舊神官ノ輩ハ右配當高ヲ別紙祿制ニ引充候上金額ニ換ヘ五ヶ年分ノ合計配當祿公債証書ヲ以テ一時ニ下賜候條右公債証書ハ明治八年八月第百三十號布告ノ通可ニ相心得一此旨布告候事

但配當米金受來候者ハ確証相添來ル四月三十日限リ其管轄廳ヘ可ニ申出一若シ右期限後ニ至リ如何樣ノ事情申出候共採用不ニ相成一候條此旨兼テ可ニ相心得一事

明治十年三月十三日

右大臣岩倉具視

右之通被ニ仰出一候條管内無レ漏相達者也

明治十年三月十九日

京都府知事槇村正直

（別紙）

祿制

配當現米

千石以上

千石未満九百石迄
九百石未満八百石迄
八百石未満七百石迄
七百石未満六百石迄
六百石未満五百石迄
五百石未満四百石迄
四百石未満三百石迄
三百石未満貳百石迄
貳百石未満

祿制現米

三百石
貳百八拾石
貳百六拾石
貳百四拾石
貳百貳拾石
貳百石
百六拾貳石五斗
百貳拾五石
八拾七石五斗
五拾石

百石未満九拾石迄
九拾石未満八拾石迄
八拾石未満七拾石迄
七拾石未満六拾石迄
六拾石未満五拾石迄
五拾石未満四拾石迄
四拾石未満三拾石迄
三拾石未満貳拾石迄
貳拾石未満拾石迄
拾石未満五石迄
五石以下

四拾五石貳斗貳升
四拾石四斗四升
三拾五石六斗七升
三拾石八斗九升
貳拾六石壹斗壹升
貳拾壹石三斗三升
拾六石五斗六升
拾壹石七斗八升
七石
五石
從前之通

第九十四號

石川縣下福井舊城内ニ於テ來ル五月十日ヨリ同月二十九日迄日數二十日間博覽會開設ニ付天工人造物ニ拘ハラス出品之儀申越候條出品候者ハ品類書目相添來ル四月十五日迄ニ當府勸業場又ハ支廳へ可申出此旨管内無洩相達者也

明治十年三月廿二日

京都府知事槇村正直

本年二月第六十號ヲ以太政官毒藥取扱規則及ニ布告置候處右者峻劇猛烈危害難レ計ヲ以豫防ニ出候御趣意ニ付明治六年第百五十五號當府布告毒物藥發兌條則ハ尤廢止候譯ニ者無レ之候條心得違之者有レ之候テハ不ニ相濟ニ候間爲レ念此段相達候事

明治十年三月廿二日

京都府知事槇村正直

捕魚及ヒ採藻ノ爲メ許可ヲ受海面并諸池川ヲ堰畫シ所用スルモノ捕魚仕法之儀者釣漁網漁銛漁ノ類ト心得ヘシ錄或者禁漁或者浸木漁等ノ如ク水行ニ關スル者又ハ兼テ水中ヘ漁具相設候者ハ別段許可ヲ受候上施行候儀ト可ニ相心得一事

右之通管内無レ漏相達者也

明治十年三月廿三日

京都府知事槇村正直

京都府布令書明治十年三月第九十六號

第九十七號 甲八一

客年八月內務省甲第三拾壹號即當府第三百六十九號布告東京府下上野公園內ニ於テ開設相成候內國勸業博覽會附屬賣物店地所割概則別紙之通ニ候條出品者爲ニ心得ニ此旨相達者也

明治十年三月廿四日

京都府知事槇村正直

（別紙）

内國勸業博覽會附屬賣物店地所割概則

一賣物店規則第一條ニ掲載スル無税ノ地ヲ貸與スルハ別紙圖面ノ場所ト相心得該店開設ヲ出願スヘシ仍テ配地ノ概則等ヲ示スコト左ノ如シ

○第一章　配地順序ハ圖面中甲一區ヨリ起シ同區中毎戸ノ順序ノ號ヲ付シ終リ乙一區ヘ渉リ夫ヨリ甲二區乙二區甲三區乙三區ト順次前側ヲ定メ後口側ニ至ル其順序前側ニ同シ

○第二章　前章六區ノ地間口ハ各自望ム所ノ間數ヲ與フト雖トモ奥行ハ六間マテニ限ルヘシ

但シ間口望ミノ通リト雖モ一區中割終リノ間數ニ不足スルトキハ（譬ハ一區中割終ノ地間口二間アリ此處三間ヲ割當ソトスル如キ）次キノ區ニテ割當テ右ノ余地ハ相當スル間口ヲ望ム者ヘ相渡ス歟又ハ配地都合ニヨリ他ノ者ヘ割増ニスルコトアルヘシ

○第三章　別種建築ノモノ或ハ動植物等ノ賣店及右ニ屬スル地ヲ要スルモノ等ハ其都合ヲ量リ前章六區ノ外圖面中丸印ノ地ニテ適宜ニ割渡スコトモアルヘシ

○第四章　地所割賦法ハ來ル四月三十日午前第十時本局ニ於テ抽籤（おみくじ）ヲ以第一章ノ順序ニ隨ヒ定ムヘキニ付前日マテニ願書本局ヘ遞送之レナキ時ハ此抽籤ニ加ハラザル故延期ナラザル樣注意シテ願出ヘシ

但シ抽籤人ハ本局ニ於テ適宜ノ取計ヒヲ成

シ其當籤ノ次第ヲ委詳告示スヘシ

○第五章　地所借用ヲ願フモノハ間口幷奥行何間ノ地ヲ要シ賣品（賣ハ陶器漆器絹布ノ毛綿何細工何々ノ物名ヲ記シ左ノ雛形ノ振合ニ倣ヒ本貫又ハ寄留ノ管轄廳ヲ經テ願出ツヘシ

但シ建設ノ仕様幷圖面ヲ添ヘシ

願書雛形　但シ圖面ハ美濃紙一枚ニ認ムヘシ

賣物店地借願

一間口何間奥行何間

但建築概畧幷圖面相添

一賣物品（賣ハ陶器類

右ハ内國博覽會附屬賣物店建設志望ニ付前書之通無

稅拜借仕建築ノ上前記物品賣捌申度御許可ノ上ハ開場迄無滯建築仕諸事御規則ノ通違背仕間敷候間此段奉願候以上

何管下何國何郡何村住　但シ寄留人ハ本籍並寄留地ヲモ記ス
何町　族籍又ハ職業名

年號月日　苗字名實印

但數人申合セ建設スル者ハ連名ヲ認メ且管轄違ヒアレハ其長官宛連書シテ便宜ノ方ヘ出シ其受ケ付ケセシ廳ヨリ事務局ヘ回送スヘシ

管轄廳長官宛

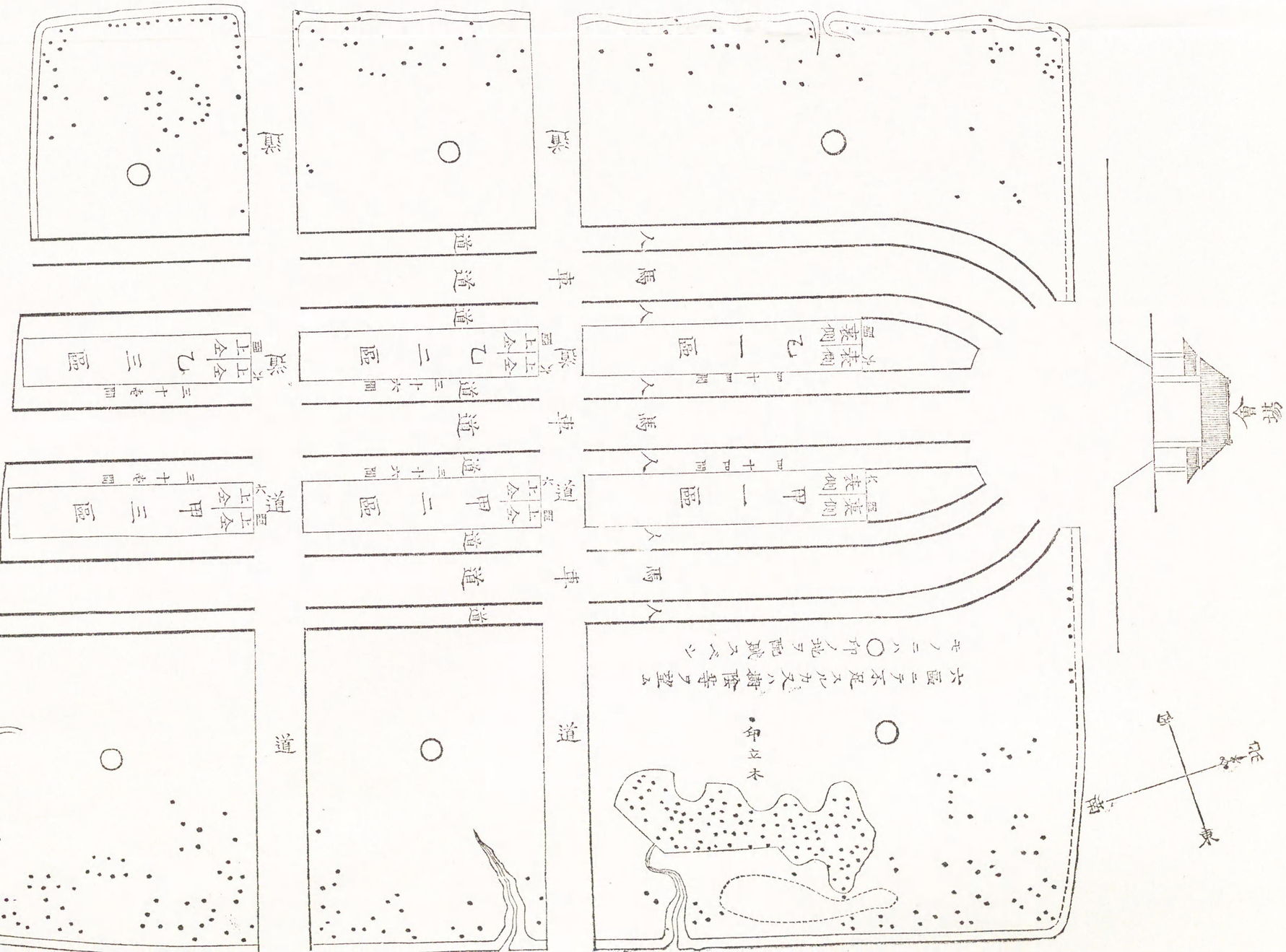
右願之通相違無之ニ付奥印仕候也

年號月日　區戸長印

但シ區戸長奥書ハ地方廳ヘ普通（つねつね）差出ス願書ニ準シ適宜ニスヘシ

上全
乙 三 層
三十七層
上全
甲 三 層
三十七層
角落
北

內國勸業博覽會附屬賣物店建築地略圖



内國勸業博覽會附屬賣物店建築地略圖

京都府布令書明治十年三月第九十八號　一〇

［第九十八號］

第三十三號

靜岡縣管轄伊豆國附屬七島裁判事務自今東京裁判所ヘ被レ屬候條此旨布告候事

明治十年三月廿二日

右太政大臣岩倉具視

右之通被二仰出一候條管内無レ漏相達者也

明治十年三月廿六日

京都府知事槇村正直

第九十九號

第貳號

明治七年十月第二十三號ヲ以及布達候電信技術生徒試驗手續書並同八年三月第九號ヲ以及布達候同書中願書改正例文トモ今般別紙之通改定候條此旨布達候事

明治十年三月十七日

工部卿伊藤博文代理

工部大輔山尾庸三

右之通達有之候條管内無漏相達者也

明治十年三月廿六日

京都府知事槇村正直

（別紙）

改正 電機通信技術方取扱規則

第一款

入校試験

第一條

願書例文（美濃紙二ッ折 正副二通）

電機通信技術生徒入校願

私儀兼テ電機通信技術志願ニ付今般入校修業仕度候間御試験ノ上御許容被成下度此段奉願候也

何府縣 何大小區何町何番地 華士族長次男 平民某兄弟附籍

宿所東京府下何大小區何町何番地 寄留某方同居

年號月日

姓名 印 年齡

電信局長某殿

前書某御試験ノ上入校御許容被成下度御規則之趣遵奉可爲致ハ勿論身元ノ儀於私始終引受申候自然疾病等ニテ退校願出ルカ又ハ官ヨリ免職被仰付候節ハ本人ニ關スル學費金都テ償納可仕候依テ保狀如此候也

肩書本人願書ニ同シ（但東京往居ノ者ニ限ル）

年號月日

姓名 印

電信局長某殿

第二條

生徒ハ年齡十五歳以上二十五歳以下タルヘシ

第三條

生徒試験日限達次第其當日午前第九時十五分前遲刻ナク出校スヘシ

但試験當日不參致シ後チ三日内ニ出頭不レ致者ハ試

驗ヲ許サス入校願書ヲ返却スヘシ

第四條

試驗條目

第一筆蹟

第二讀書（皇國史畧並ニ翻譯書英佛會話又ハ「リードル」其他本人學フ所ノ書籍ニヨル）

但即今洋學無レ之ト雖モ志願篤切後來屹ト成業ノ見込有レ之者ハ試驗ノ上入校セシムルコトアルヘシ

第五條

試驗可ナル者ハ凡四週間自費ヲ以テ通學ヲ許シ電信字號譜誦ノ後現字紙ヲ讀マシメ和歐文ノ送信ヲ試ミ優劣ヲ分チ其能者ハ入校ヲ許シ擧テ修技生ニ命シ爾後定規ニ據リ其技ヲ試驗シ工術等級表ニ照シ進級セシムヘシ

第六條

生徒科業ノ書籍筆墨紙等總テ官費タルヘシ

第七條

生徒入校許容ノ月ヨリ滿五ケ年當局ヘ勤仕スルヲ期約トス故ニ此年期中ハ決シテ他ニ轉處アルヘカラス自然疾病等ニテ退校願出ルカ又ハ官ヨリ退校申付ル時ハ本人ニ關スル一切ノ學費其退校ノ緣由ト在校ノ年月トニ應シ償納規則ニ照シ身元引受人ヨリ辨償セシムヘシ

第八條

生徒疾病等ニテ不レ得レ止一旦退校スルモノ再ヒ入校ヲ請フ時ハ更ニ其技學ヲ試ミ取捨スヘシ

但再入ノ者ハ兼テ差出シタル證金ヲ還付シ且勸仕年數モ前在校中ノ年月ヲ算入スヘシ

第九條

再入校願書例文（美濃紙二ツ折正副二通）

電機通信技術生徒再入校願

私儀兼テ電機通信技術志願ニ付何年何月日退校仕罷在候處（病氣全快云々）ニ依何年何月日入校修業ニ付今般再入校修業仕度候間更ニ御試驗ノ上御許容被成下度此段奉願候也

肩書前同文

年號月日

姓名印

年齡

電信局長某殿

前書某御試驗ノ上再入校（以下前條狀書同文）

第百號

文部省第二年報（明治六年分）

今般刻成同省ヨリ達相成候付別紙之個所ニ備置候條銘々最寄之便宜ヲ以參觀可致此旨管内無漏相達者也

明治十年三月廿七日

京都府知事槇村正直

（別紙）

上京　第七校　同拾八校

同廿三校　同廿一校　同拾校

下京　第拾校　同拾二校　同拾五校

同廿三校

伏水　同二校　同廿七校